

1.5Mbpsも15万円時代に突入!

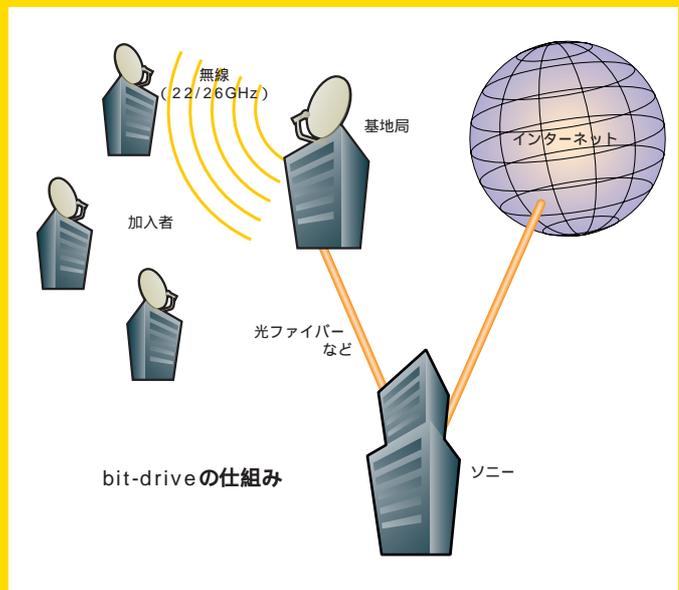
無線インターネット「bit-drive」の実力

bit-drive

ソニーの無線ブロードバンドサービス「bit-drive」が、7月1日より開始される。ついに通信事業にも乗り出したソニーの無線サービスとはどのようなものなのか。ここではその詳細を紹介してみる。

1.5Mbpsの無線サービス7/1よりスタート!

今回ソニーが開始するのは、FWAと呼ばれる無線を使った接続サービスだ。サービスの形としては、屋上や窓際などに直径約25cmのアンテナを設置して基地局との間で無線データ通信を行い、基地局からは光ファイバーなどの有線によってインターネットへと接続されることになる。今回開始されるのは、1.5Mbpsで月額15万円の企業向けサービスだ。加入費用は3万円で、別途アンテナ取り付けなどの工事費用（数万円程度）が必要となる。サービスエリアは、7月のサービス開始の段階では東京、横浜、名古屋、京都、大阪、福岡の6都市で、12月以降には全国の主要都市で開始される予定となっている。また、東京23区内に限っては、bit-driveの利用者間を接続する形の「シティアクセスサービス」も開始される。これは、あらかじめ指定した相手との通信に限り月額7万円の固定料金となるサービスで、本社と支社の間を結ぶような使い方を想定している。こちらのサービスも今後は拡大していく予定だが、現在のところ時期は未定となっている。



www.bit-drive.ne.jp

bit-drive サービス概要

加入費用	30,000円
工事費	実費（数万円程度）
月額料金	150,000円 （アクセスライン・インターネット接続費用込み）
IPアドレス	8個または16個

サービスエリア

東京都	千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、江東区、品川区、目黒区、大田区、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区
神奈川県	横浜市（西区、中区、南区）、厚木市
愛知県	名古屋市（千種区、東区、中区、昭和区、熱田区、中川区）
京都府	京都市（上京区、左京区、中京区、東山区、下京区、南区）
大阪府	大阪市（福島区、西区、北区、中央区）
福岡県	福岡市（博多区、中央区、南区、西区、早良区）



室内装置（上）は432×374×89mmとビデオデッキ程度の大きさ。アンテナ（右）は直径258mmで屋上やベランダなどに設置される。



サーバーの設定もメモリスティックで簡単に



bit-driveは高速な通信回線だけでなく、それを生かすためのサーバーも同時に提供する。「Digital Gate」は、インターネットの接続に必要な機能を備えたネットワークサーバーで、1.5Mbpsの接続サービスと合わせて月額18万円で提供される。特筆すべきは、サーバーの各種設定をメモリスティックで行える点だ。サービス導入にあたっては、コンサルティングをもとに設定済みのメモリスティックが用意されるので、起動時にメモリスティックを挿入するだけで誰でも簡単にサーバーが立ち上げられる。また、さらに細かい設定については、ブラウザ上から変更することもできる。また、各種サーバーのセキュリティホールが発見された場合でも、ソニーのセンターからアップデートファイルがDigital Gateに送信され、自動的にアップデートが行われる仕組みになっている。

ブロードバンド=アクセスライン+アプリケーション

CATVやxDSLといった高速常時接続サービスの開始が相次ぐ中、あえて独自の通信事業に乗り出すソニーの意図とはなんだろうか。

「bit-driveは、アクセスラインだけを提供するサービスではありません。ソニーでは、ブロードバンドとはアクセスラインの上に乗せるアプリケーションも含めて提供するものと考えております」と語るのは、ソニーの通信サービス事業部の神田氏だ。ソニーには、音楽、映像、ゲームといったコンテンツがすでに豊富にある。こうしたコンテンツの提供には高速回線が欠かせないというわけだ。

ただし、今回bit-driveで提供されるのは企業向けの接続サービスなので、アプリケーションサービスもビジネス向けのものとなる。「bit-promotion」は、プロモーションを作成するためのアプリケーションサービスで、ソニーが保有する動画像ライブラリーの提供や、デジタルクリエイターの紹介サービスなどを行う。こうしたクライアントとクリエイターのやりとりなどで、高速回線のメリットが発

揮されることになる。このほか、複数のオフィスをつなぐテレビ会議室の設置や、動画を中心としたビジネスニュースを提供する「bit-portal」、イベント型のバーチャル見本市を提供するサービスとなる「bit-messe」などが提供される。

しかし、やはり期待したいのは個人向けのサービスだが、現状では開始の予定は決まっていない。一番の原因は、FWAの機器が高額なためだ。bit-driveを使ったインターネットマンションの開始も発表されているが、これはbit-driveをバックボーンとして使うだけで、従来のインターネットマンションとそれほど変わるわけではない。

しかし、サービスが普及して機器の値段が下がれば、個人宅に直接アンテナを設置する形のサービスも、十分に考えられる。「通信業界では加入者への回線部分を『ラスト・ワン・マイル』と呼びますが、ソニーでは『ファースト・ワン・マイル』と呼んでいます。これは、お客様側からネットワークを見

ているというソニーのスタンスを表しています」(前述の神田氏)。今冬には、プレイステーション2のネットワーク接続装置が発売される。しかも、対象となるのはCATVやxDSLなどの高速接続サービスだが、こうしたサービスはまだまだ利用できる地域に限られている。「ファースト・ワン・マイル」の第3の選択肢は、ソニー自身が提供してくれることに大いに期待したい。



「bit-driveはアプリケーションを持っている人にもぜひお使いいただきたい」と語るソニー通信サービス事業部の神田氏。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp